

2012年7月30日

成城大学社会イノベーション学部完成報告書

1. 教育目標

社会イノベーション学部は、社会に持続可能な発展をもたらす人間の創造活動であるイノベーションを学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関連する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的な日本語表現そして実践的な英語コミュニケーションを行う能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的としている。

2. 学部の水準による評価

2. 1. 教育課程編成・実施方針

社会イノベーション学部は、その教育目標（人材育成上の目的）を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施している。

- ・ 教授する内容に応じて、「専門科目」、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、「総合教養科目」という6つの科目群を配置する。

ー 「専門科目」（選択科目）

イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置し、政策イノベーション学科では「政策系科目」と「戦略系科目」の科目を、心理社会学科では「心理系科目」と「社会系科目」の科目を、それぞれ重点的に履修させる。

ー 「基礎科目」

イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する。

ー 「外国語科目」

実践的英語活用能力（“使える英語力”）を涵養する科目を配置する。世界共通言語（リンガフランカ）としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる。

ー 「学部共通科目」

英語力のさらなる向上、および、英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する。

－ 「一般共通科目」

情報リテラシー、身体スキル、キャリア開拓技能を涵養する科目を配置する。

－ 「総合教養科目」

専門能力を適切に発揮させる基盤として、「道理と道徳を重んじ、言動に品格を求める」という理想の実現をはかり、「広角の視野と高度の教養を具え、豊かな個性を持つ社会の先導者を育成する」という建学の精神及び本学の目的に基づき、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する。

－ 「専門科目」(必修科目)

総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、および、その能力を活用して、自律的な取組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

6つの科目群のうち、「総合教養科目」、「一般共通科目」、「学部共通科目」が教養教育に相当し、多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる、批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う、そして、主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う、ということを目標とする全学共通教育科目群を配置している。

2. 2. 導入教育

1年次に、必修科目として、「イノベーション概論」、「科学技術と社会」、「情報リテラシー」、「データ分析入門」といった基礎科目を配置して、イノベーションに密接に関連する基礎的な知識を教授したり、基盤的な技能の涵養をはかったりすることもさることながら、大学での学習のあり方などについても、適宜、指導している。

また、AO入試や指定校推薦による入学予定者に対しては、入学準備プログラムを設け、12月から2月にかけて月1回程度、授業を行い、課題に取り組ませることにより、入学前の段階から本学部で学ぶことへの関心をさらに高め、また、中等教育段階までで修めておくべき基礎的な知識・能力を確実にするようにはかっている。

2. 3. 履修指導

入学時には、1年次学生を対象として「フレッシュマン・ガイダンス」を行っており、その中で、学部および教務部より履修指導を行っている。特に、学部からは、2名の学科主任と基礎教育主任がガイダンスに参加し、大学4年間のカリキュラム全体に関して指導をしている。学科主任は、学生に対しまず将来の大学卒業後の自分の姿を目標として設定させ、その達成のためには3年次、4年次でどのような研究分野を専門とし、また1年次、2年次でどのような基礎科目、総合教養科目等を履修すべきかといった学年進行、教育内容を踏まえた履修指導を行っている。また基礎教育主任は1年次から3年次までの英語教育全般について、カリキュラム上の特徴および在学中に複数回受験するTOEIC試験についての指導をしている。

また、学生が2年次当初に、その後の専門領域について4つのコースの中から1つを選択して申告し、卒業時に修得単位に応じて修了を認定するコース制を設けている。これにより、専門科目についてはできるだけ関連する授業科目の履修を促すしくみとしている。

さらに、履修相談については、全学的に実施されているが、これに加えて、本学部独自に1年次学生を対象として実施してきた。ただ、入学直後では、1年次には必修科目が多いこともあろうが、学生からの履修相談が低調という実績であったため、2012(平成24)年度より取り止めた。代わりに、学生からの要望に応じて、適宜、学部事務職員や学科主任教員等が対応する体制としている。

また、1年次後期および2年次後期には、それぞれの学生に対して、次年次における必修であるゼミナール等の配属に向けた選考などに関する説明会を行っている。

なお、シラバスについては、本学部は対象とされていなかったが、前回の大学評価において、本学は「全学部について、シラバスの記載内容に精粗があるので改善が望まれる」という助言を受けたことから、全学的に改善に取り組んできている。全学の教務委員会において、すべての授業科目について一律の記載すべき事項を定め、記述すべき内容や分量の目安等に関するガイドラインを作成して教員に周知をはかるとともに、科目を開設する部局(学部等)およびFD委員会が個々のシラバスについてガイドラインへの適否を検証して、確定までに改善を促すしくみも有している。

2. 4. 履修授業科目登録単位数の上限設定

社会イノベーション学部では、各学年の履修上限単位数を52単位としている。したがって、現状では、公益財団法人大学基準協会が定める大学基準を満たしているとはいえない。

しかし、この52単位という履修上限単位数については、学部設置申請の際、当時の大学設置基準及び講義科目中心のカリキュラムである点等を考慮して設定したものであり、今後の全学的検討作業に合わせて改定する予定である。

2. 5. 教育内容等の組織的改善

本学部では、設置当初より、学部内において授業評価アンケートを実施し、その結果を授業科目担当教員に通知するとともに、2008(平成 20)年度前期には学部全体の概況について公表してきた。本学部は対象とされていなかったが、前回の大学評価において、他の学部について、「学生による授業評価が制度として行われていないので改善が望まれる」という助言を受けたことから、全学的にファカルティ・ディベロップメントを進める体制に移行した。そして、授業評価アンケートについても、全学的に、すべての授業科目(講義・演習・実習・実技等)を対象として統一した質問項目を用いて実施しており、その結果を授業科目担当教員に通知するとともに、授業科目所管部局(学部等)や授業形態ごとに全体の概況について学生だけでなく一般にも公表している。また、授業科目所管部局(学部等)の長は、その結果に対する所見や当該部局における改善の方策・方針について公表している。これらの取組みを通じて、教育内容等の組織的改善をはかっている。

<添付資料>

表 2 全学の教員組織

表 3 学部・学科、大学院研究科、専門職大学院の志願者・合格者・入学者数の推移

表 4 学部・学科、大学院研究科、専門職大学院等の学生定員及び在籍学生数

H 2 2 表 6 卒業判定